

北インド，ウツタルプラデシ州，サンディラ地域における 伝統的市の分布と特性

石原 潤・溝口常俊

1 はじめに

筆者らは、1989年度科学研究費国際学術研究によって、北インド，ウツタルプラデシ州，ハルドイ県，サンディラ地域において、伝統的市に関する調査をおこなった。本稿は、その調査結果の内、伝統的市の分布と特性に関する部分である。現地調査は、1989年11月から90年1月にかけておこなわれた。

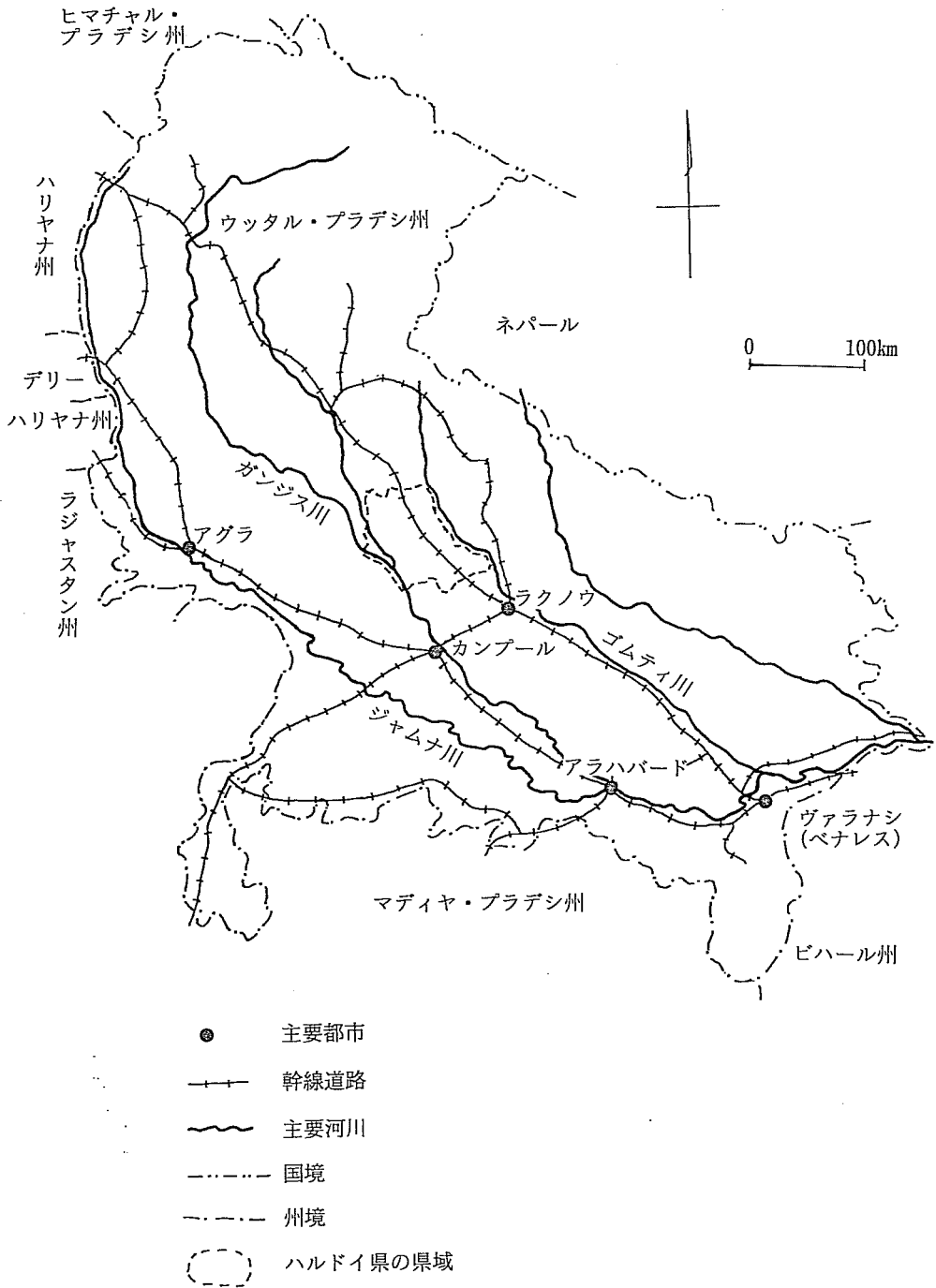
ウツタルプラデシ州は、インド北部に位置し、人口1億人を越える大州であり、ヒンズー的伝統の強い地域でもある。ハルドイ県は、第1図に示すように、州の中央部，州都ラクノウの北西方に位置する。広大なヒンドスタン平原のまっただ中にあり、州内でも平均的な，農村的要素の卓越する県である。対象地域は、諸種の制約のため、県の南西部サンディラ郡(*Thasil*)に属する，サンディラおよびバラワンの両ブロック (*Vikas Khand*) に限定した (第2図参照)。

対象地域の中心であるサンディラの町は、人口約3万，ラクノウの北西約70kmに位置し，バスで約2時間の行程である。対象地域の人口は24.2万人(1981)，面積は616km²，人口密度は394人/km²である。住民の大部分はヒンズーであり，伝統的な様々なカーストに分かれる。ムスリムの構成比は約9%である。

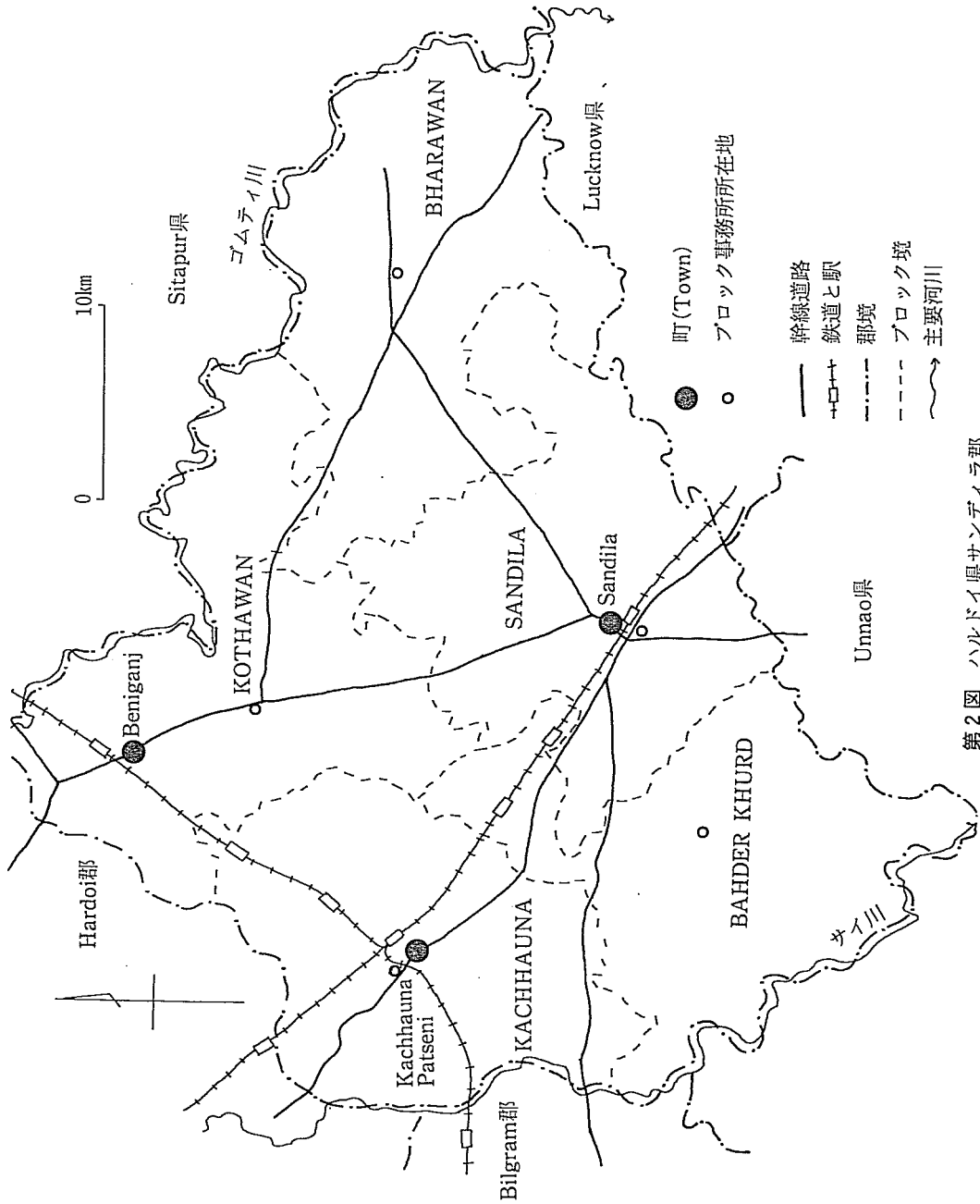
対象地域内の主産業は，いうまでもなく，伝統的な小農経営による農業である。*kharif*作の主要作物は米であり，比較的低い土地に栽培される。これに対して*rabi*作の主要作物は小麦であり，発達した用水路網により灌漑を受ける土地に栽培される。この他，大麦，とうもろこし，*jowar*，*bajra*，さとうきび (灌漑地)，豆類，油脂作物，各種野菜類も栽培されている。

サンディラの町とその西方に位置する工業団地には，いくつかの近代的工場があり，また，手織の綿織物業や*chikan*細工 (一種の刺繍細工) などの手工業も，サンディラの町を中心に展開しているが，農業に比べてその重要性は低い。

対象地域内の交通事情は，決して良いとは言えない。ラクノウからハルドイに達する鉄道がサンディラの町を通っているが，長距離移動にのみ利用されるにすぎない。これに対して，それと平行して走る州道は，バスが頻繁に走っており，よく利用されている。サンディラの町から南，西南，西の3方向には，それぞれバス路線が伸びており，概ね1時間に1本のバスサービスがある。またサンディラから北北西Kothawan方面，および北東のBhadpurへ，さらに



第1図 調査地域の位置



第2図 ハルドイ県サンディラ郡

KhothawanからAtrauliを経てラクノウ方面へも、それぞれバス路線があり、やはり概ね1時間に1本のサービスである。これらのバス道路は舗装されているが、それ以外には、舗装道路は極めて限られている。大部分の村々はこれらの道路から外れて立地しており、そこへ達するには、歩くか、せいぜい自転車が利用出来るにすぎない。

対象地域内には、31の定期市と一つの毎日市(サンディラの市)がある。筆者らは、都合により果たせなかった1ヶ所(Bindrabanの小さな市)を除き、他の全ての市を訪問し、調査を行った。すなわち、市の様子を観察するとともに、出店者の配置をも含む市の平面図を作成し、併せて、市に関する良好なインフォメーションを得るため、市の管理者、またはその地区の長老に対してインタビュー調査を試みた。さらに、市分布の変遷については、筆者の一人である石原がロンドンの各種図書館で収集した、官選地誌(Local Gazetteer)やセンサス報告書によって検討した。

なお、本稿における分析は、筆者らによる以前の調査地域、すなわち、バングラデシュ・ミルジャプール郡²¹(以下では単にバングラデシュと記す)、タルミナード州ナーマッカル郡²²(以下ではタミルナード)、および西ベンガル州タムルク地域²³(以下では西ベンガル)との比較において行われる。

2 市の分布

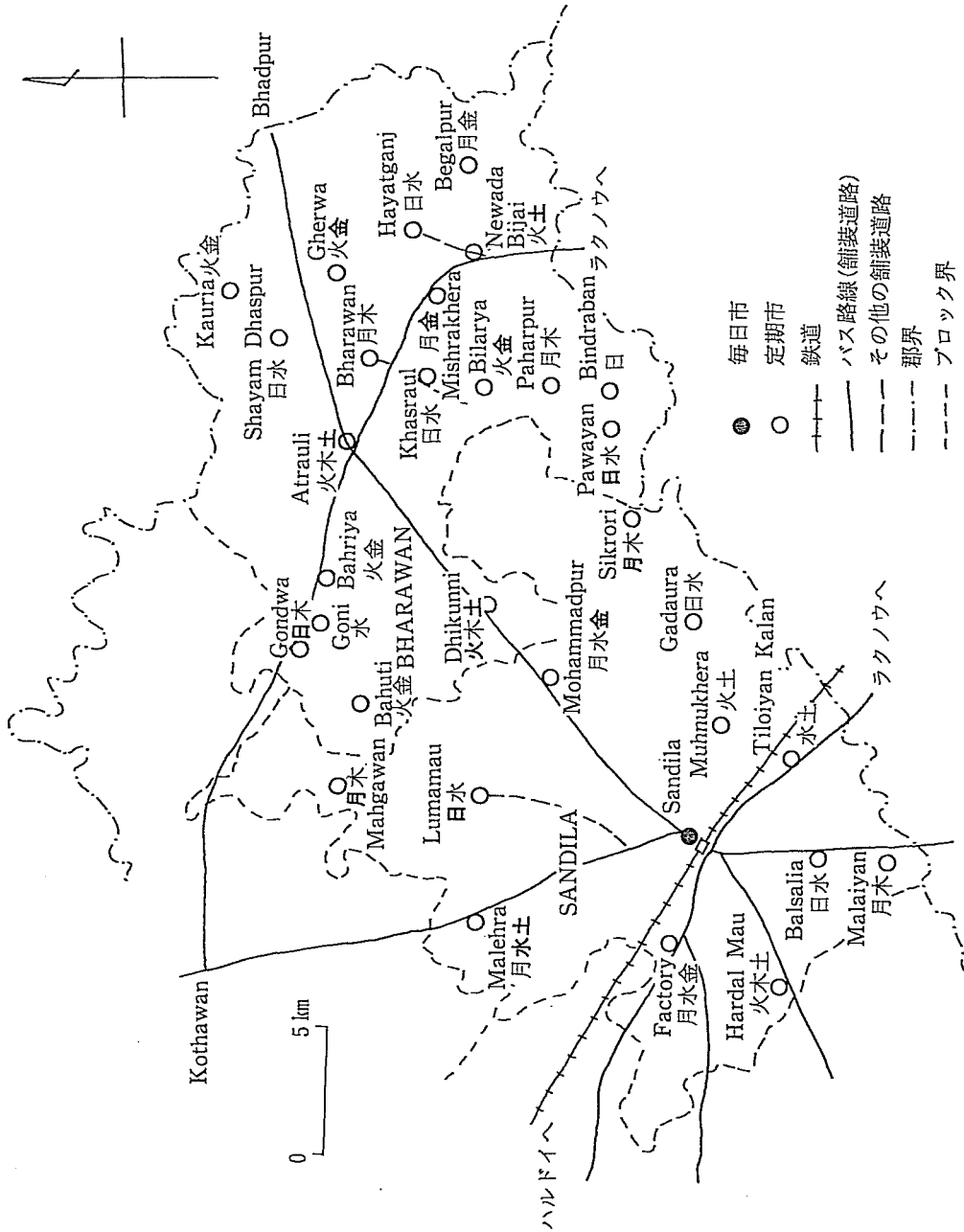
対象地域における100km²当り市密度は5.31で、以前の調査地域中、バングラデシュが7.88、西ベンガルが12.76であったのに比べてかなり低いが、タミルナードが2.23であったのに比べるとかなり高い。市密度は、概して、これらの地域の人口所密度、すなわち、タミルナード309人/km²、バングラデシュ616人/km²、西ベンガル1,210人/km²に比例している。

第3図に示されているように、対象地域において、市は空間的に比較的均等に分布している。ただし、サンディラの町の周囲には、市を欠く地域がかなり広がっているが、これは、サンディラの毎日市の強い影響力のためと思われる。

14ヶ所の市がバスルートに沿って立地しており、4ヶ所の市がバスルートではないが舗装道路に沿って立地している。しかし、残る14ヶ所の市は、これらの道路から外れており、そこを訪れるのは容易ではない。

大部分の市は週に2回開かれ、この他には、週1回の市が2ヶ所、週3回の市が6ヶ所、毎日市が1ヶ所あるにすぎない。したがって、当地域の市の週あたり平均開催頻度は、2.28となり、西ベンガルの3.79よりは低いが、バングラデシュの1.25や、タミルナードの1.10よりは高い。

定期市の市日の時間的配分は、第1表に示されている。土曜市が他の日の市に比べて少ないものの、一般に市日は週の各曜日にかなり均等に配分されており、カイ2乗検定によっても、均等配置に対する有意な差異は認められなかった。したがって、当地域には特に市の日として



第3図 市の分布 (注) ゴシックで記された曜日は、より賑わう市日。

第1表 定期市の市日の配分

市日	市数
月曜	9
火曜	10
水曜	12
木曜	9
金曜	10
土曜	5
日曜	11
χ^2	4,621

第3表 現存の定期市の開設年

年	市数
非常に古い/18世紀	4
19世紀	7
1901—1939	1
1940年代	2
1950年代	3
1960年代	2
1970年代	9
1980年代	3
計	31

好まれる曜日は存在しないと言える。

なお、第3図からは、一般に隣接する市が市日の競合を避けるよう、異なった市日を選択する傾向が読みとれる。ただし、さまざまな局地的な理由で、競合が見られる例もないわけではない。

大部分の市は、午後に開かれる(第2表参照)。2時頃に始まり、日没前の5時か6時に閉じるものが多い。一番賑わうのは、4時頃である。一般に、小さい市ほど遅く始まり、開市時間が短いと言える。

3 市の分布の変遷

地区の長老等から得られた市の設立年は、各市毎に第2表に記されているが、それを集計したものが第3表である。10余りの市は、19世紀またはそれ以前に設立された古い市である。しかし、他方では、10数ヶ所の市が、最近30年間に開設されている点が、注目される。

1904年以來の官選地誌や、1961年以來のセンサス報告書には、市のリストが掲載されている。第4表は、これらの資料に基づき、対象地域における市数の変化を見たものである。1904年から1961年までの間は、変化はわずかである。しかし、1960年代と1970年代には、市数は急速に増加し、その後、1981年以降は、減少に転じている。

1960および70年代における急速な増加は、人口増加に加えて、商品経済化・市場経済化によってもたらされたものと思われる。小麦、さとうきび、マンゴー、綿織物などの商品生産の発展と、他方では、ジャジマニ制など伝統的交換システムの衰退が、それらの背景にあったであろう。これに対し、1980年代における市数の減少は、交通の改善とそれによる市の淘汰の結果であると考えられる。例えば、サンディラからAtrauli, Bhadpurに通ずる道路は、1975年にバスが開通し、1977年に舗装された。また、KothawanからAtrauliを経てラクノウに通じる道路は、1984年に舗装され、バスが通るようになった。

第2表 市の立地、時間的特性、開設年および近年の趨勢

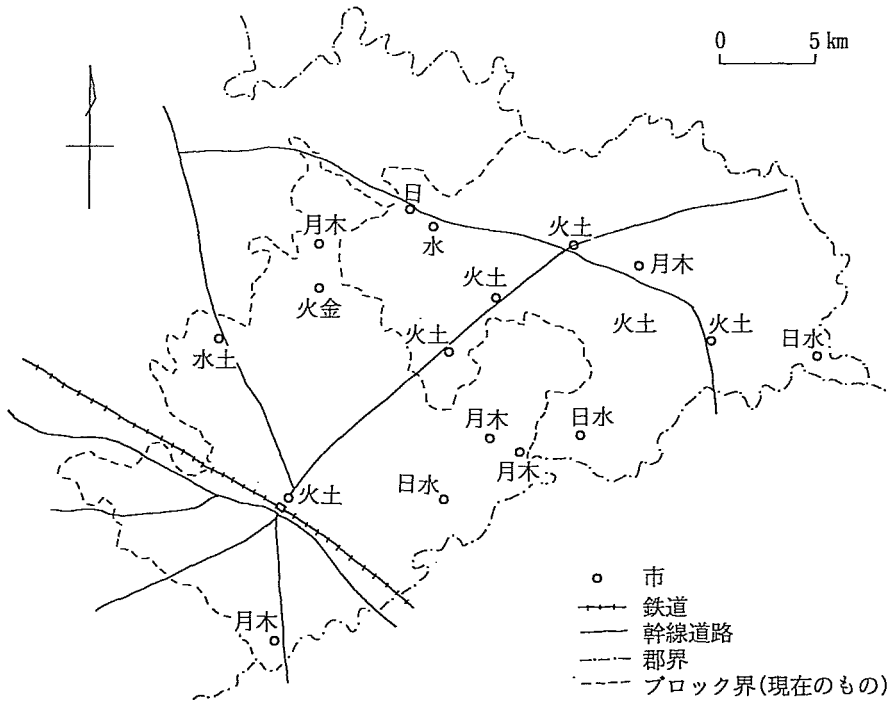
市の名称	立地	市日	開催時間 (午後、時)	最も賑わう 時刻(午後、時)	開設年	取引の近年に おける趨勢	取引の近年における趨勢を ひきおこしている要因
1. Gondwa	○	日	2-6	3:30	200年前	変化なし	—
2. Bahuti	×	火、金	2-6	4	1978	//	—
3. Kauria	×	火、金	3-5	4	1976	//	—
4. Shayam Dhaspur	×	日、水	0-6	4	1951	//	—
5. Goni	×	水	2-5:30	4	100年前	衰退しつつある 発展しつつある	新設市との競合 バスルート沿いの良好な立地 新たに作られた設備の存在
6. Bahriya	○	火、木	2-5	4	1979	//	—
7. Dhikumni	○	火、木	2-6	4	非常に古い	//	—
8. Atrauli	○	火、木	2-6	4	非常に古い	//	—
9. Bharawan	△	月、木	2-5	4	1936	衰退しつつある	新設市との競合 道路の整備
10. Gherwa	×	火、金	2-5	4	1959	変化なし	育成者の欠陥
11. Mishrakhera	○	月、金	2-5:30	4	1985	発展しつつある	売り手への公正な扱い、地元の人々の協力 人口の増加
12. Khasraul	△	日、水	3-5	4	1984	//	—
13. Begalpur	×	月、金	3-5	4	1959	変化なし	—
14. Hayatganj	×	日、水	2-5	4	1949	//	—
15. Newada Bijai	○	火、土	3-5	4	100年前	衰退しつつある	スペース不足 新設市との競合
16. Paharpur	×	月、木	2-5	5	1969	変化なし	—
17. Pawayan	×	日、水	3-6	4	1890	//	—
18. Bilarya (Amilahara)	×	火、金	2-5	4	1974	発展しつつある	市の組織が公明正大 人口の増加
19. Malehra	○	月、水	0-6	4	1940年代	//	—
20. Lumamau	△	日、水	2-5	4	1900	//	他の諸市に対して中間的地位
21. Mahgawan	×	月、木	2-5	4	100年前	?	—
22. Mohammadpur	○	月、水	2-5	4	1978	発展しつつある	他の諸市に対して中間的地位
23. Siktori	×	月、木	2-6	4	100年前	衰退しつつある	育成策の欠陥
24. Muhnukhera	×	火、土	2-6	4	1965	変化なし	—
25. Gadaura	○	日、水	3:30-5	4	100年前	発展しつつある	人口の増加
26. Tiloiyan Kalan	○	水、土	2-6	4	1971	//	—
27. Factory	○	月、水	2-5	4	1986	//	家着市の発足 工場と工場労働者の増加
28. Hardal Mau	○	火、木	2-5	4	1979	//	—
29. Balsaliya	○	日、水	2-5	4	1974	衰退しつつある	他の市との競合
30. Malaiyan	×	月、木	3-5	4	非常に古い	//	新設市との競合
Bindraiban	×	日	4-6	5	1978	変化なし	—
Sandila	○	毎日(水を除く)	午前8-2	午前10	150年前	発展しつつある	良好な立地

注 1) 立地 ○:バスルート沿い △:他の舗装道路沿い。 ×:舗装道路から外れている。
 2) 市日 〇:記された曜日 △:他の舗装道路沿い。 ×:舗装道路から外れている。
 3) 開設年 〇:市の長老等から得た開設年についての情報は官選地誌やセンサスから得られるそれと異なっていることがある(第4~11図参照)。

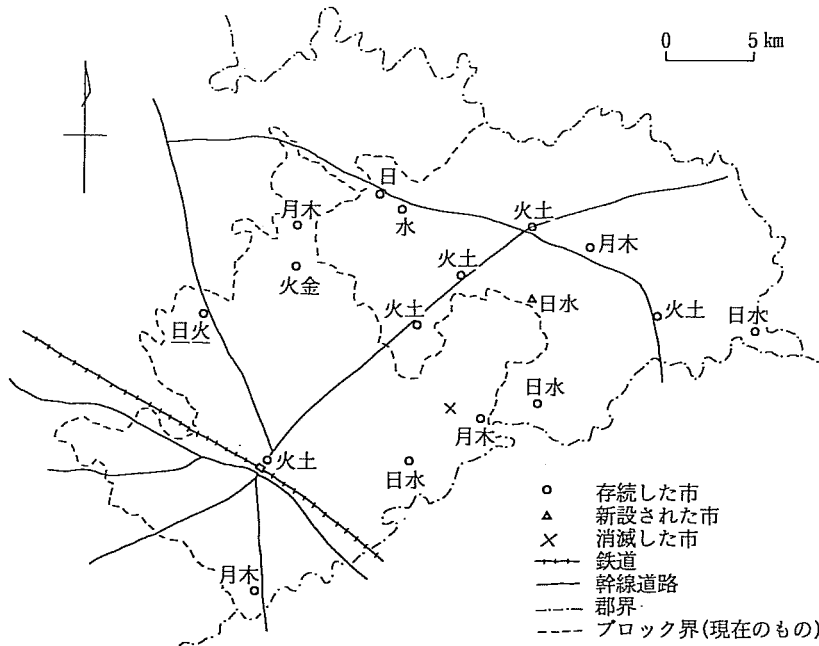
第4表 市数及び開催頻度の変化

年	市の数					市日の 延べ数	平均 開催 頻度
	週1回 の市	週2回 の市	週3回 の市	毎日市	計		
1904	2	15				17	1.88
1912	2	15				17	1.88
1922	3	14				17	1.82
1932	3	12		1	16	34	2.13
1961	3	12		1	16	34	2.13
1971	3	17		1	21	43	2.05
1981	3	31	3	1	38	81	2.13
1989	2	23	6	1	32	73	2.28

出典：官選地誌(1904, 1912, 1922及び1932年), センサス(1961, 1971及び1981年), 筆者らの現地調査(1989年)

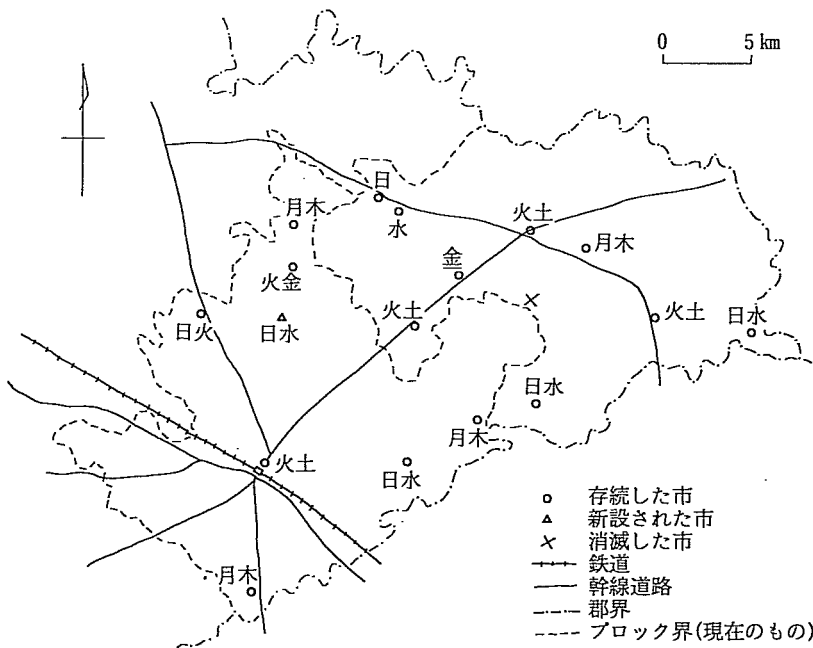


第4図 1904年の市の分布



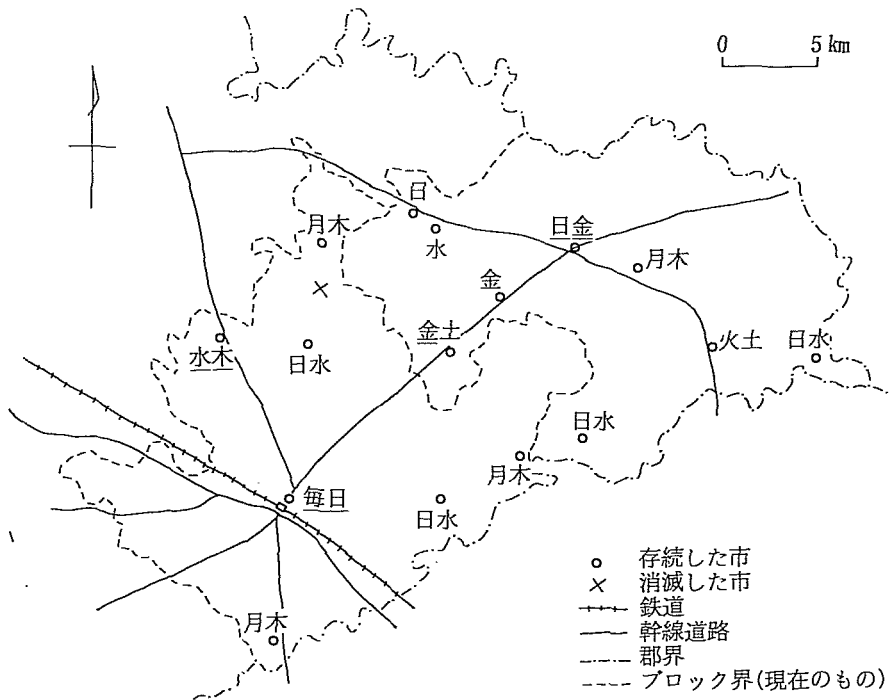
(注) 下線の引かれた市日は、この間に変更されたもの。

第5図 1912年の市の分布と1904～1912年のその変化



(注) 下線の引かれた市日は、この間に変更されたもの。

第6図 1922年の市の分布と1912～1922年のその変化



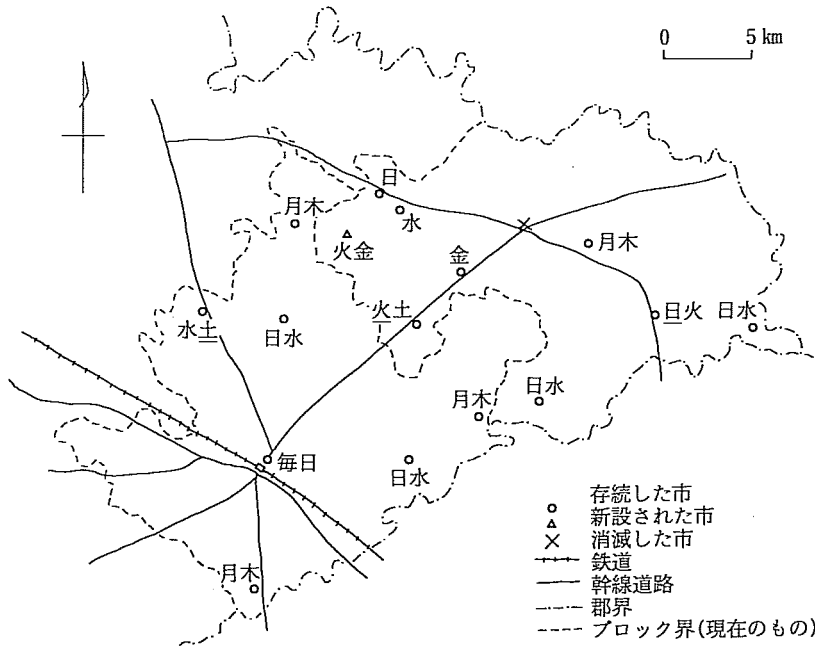
(注) 下線の引かれた市日は、この間に変更されたもの。

第7図 1932年の市の分布と1922～1932年のその変化

第4表はまた、市の開催頻度の変化をも示している。平均開催頻度は、サンディアラの市が毎日市に変わった1922年と1932年の間、および、週3回の市が増加した1981年と1989年の間で、特に上昇している。

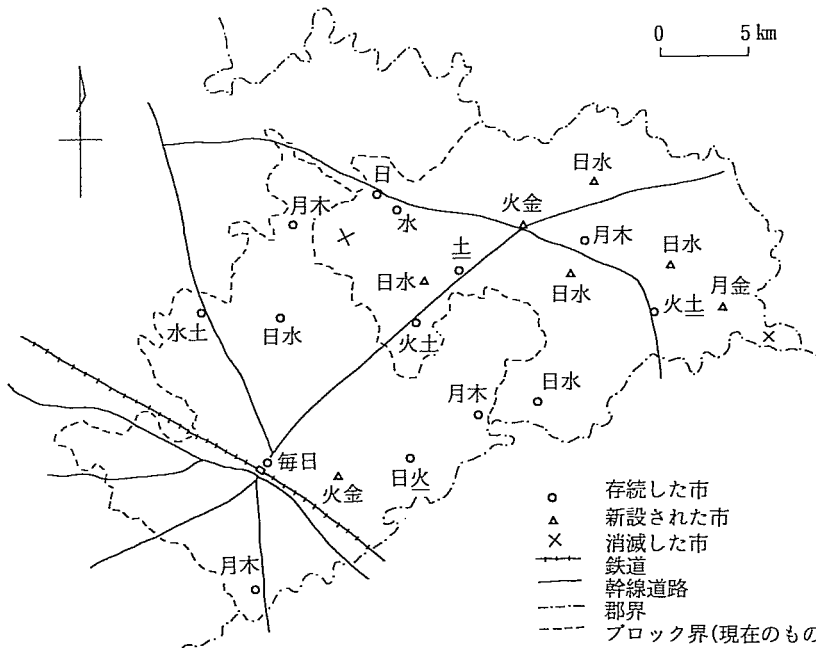
しかしながら、市の変化は、上記のような市の数や平均開催頻度の変化のみならず、市の具体的な立地点や開催曜日の変化をも含んでいる。従って、次に、このような変化を、第4—11図によって検討する。

まず、1904年(第4図)と1912年(第5図)の間には、出現した市、消滅した市、市日の曜日を変えた市が、それぞれ1ヶ所あった。次に、1912年と1922年(第6図)の間にも、再び、出現した市、消滅した市、曜日を変えた市が、それぞれ1ヶ所あった。また、1922と1932年(第7図)の間には、出現した市が1ヶ所、市日を増やした市が1ヶ所(サンディアラ)、曜日を変えた市が3ヶ所あった。さらに、1932年と1961年(第8図)の間は、期間が長く、しかも第2次大戦やインドの独立といった激変があったにもかかわらず、変化は比較的少なくて、出現した市が1ヶ所、消滅した市が1ヶ所(Atrauliの市であるが、住民の話では、この市が途絶えたことはないと言う)、曜日を変えた市が3ヶ所あったに過ぎない。



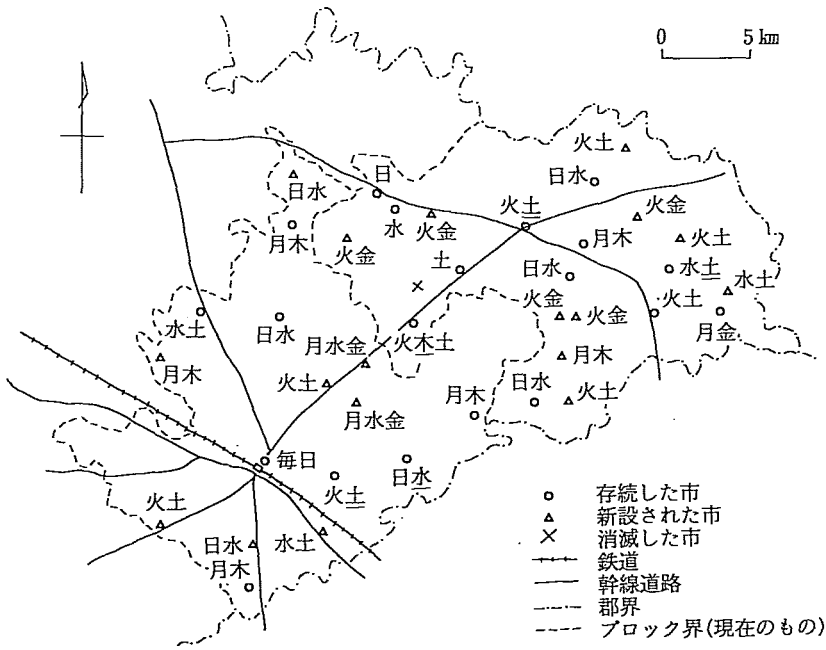
(注) 下線の引かれた市日は，この間に変更されたもの。

第8図 1961年の市の分布と1932～1961年のその変化



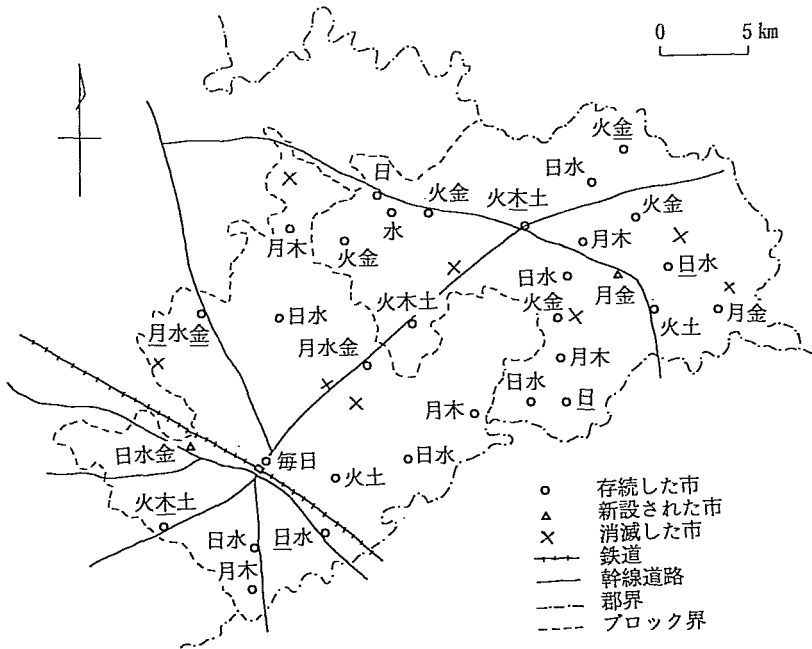
(注) 下線の引かれた市日は，この間に変更されたもの。

第9図 1971年の市の分布と1961～1971年のその変化



(注) 下線の引かれた市日は、この間に変更されたもの。

第10図 1981年の市の分布と1971~1981年のその変化



(注) 下線の引かれた市日は、この間に変更されたもの。

第11図 1989年の市の分布と1981~1989年のその変化

ところが、多くの変化が1961年と1971年(第9図)の間に起こった。7ヶ所の市が出現し(うち1ヶ所は上述のAtrauli市の再出現)、1ヶ所の市が消滅し、3ヶ所の市が曜日を変えたのである。さらに、より一層の変化が、1971年と1981年(第10図)の間で起こった。すなわち、18ヶ所の市が出現し、1ヶ所の市が消滅し、6ヶ所の市が曜日を変えたのである。最後に、最近、1981年と1989年(第11図)の間の変化も大きく、2ヶ所の市が出現し、7ヶ所の市が消滅し、4ヶ所の市が市日を増やし、1ヶ所の市が市日を減らし、2ヶ所の市が曜日を変更している。

以上のように、市の開設・消滅の変化はかなり激しく、特に市が小規模な場合、永続することは必ずしも容易ではなかった。既存の市の中に新設された市も、厳しい競争の結果、消滅してしまうことが少なくなかった。また、市日の曜日の変更も、周囲の市との競合を避けるために、しばしば行われたのである。

そこで筆者らは、市の近年の傾向を知るため、市の管理者等に、各市における取引活動の趨勢を尋ねてみた。その結果は、第5表に示されている。それによれば、舗装道路沿いの大部分の市は、「発展しつつある」市であるのに対し、それから外れた市の大部分は、「停滞的な」市であり、この他にも、いくつかの「衰退しつつある」市も見られる。回答者が挙げた「発展」の主な理由は、人口増による需要の増加(Malehra, Gadaura, Khasraulの各市)、工場労働者の増加による需要増(Factoryの市)、主要交通ルート沿いの有利さ(Atrauli, Bahriyaの各市)、他の市との競合が少ないこと(Mohammadpur, Lumamauの各市)などである。これに対して、彼らが挙げた「衰退」の主な理由は、新たに開設された市との競合(Malaiyan, Balsaliya, Newada Bijai, Goniの各市)などである。これらのことは、この地域において、立地等で有利な市がますます発展し、不利な市が次第に淘汰されつつあることを示している。

第5表 定期市における取引の近年の趨勢

	バスルート沿いの市	他の舗装道路沿いの市	舗装道路から外れた市	計
「発展しつつある」	9	2	2	13
「変化なし」	1	1	10	12
「衰退しつつある」	3	1	2	6
計	13	4	14	31

4 市の管理

第6表は、市の管理について、筆者らが管理人等に対して行った、インタビュー調査の結果を示している。

第6表 市の管理状況

市の名称	市の開設者	市場の所有者	市の管理人	出市料 (Rs.)	出市料の徴集請負人 (Rs.)	1988 (Rs.)	1989 (Rs.)	市委	紛争の調停者	市場の消通者
1. Gondwa	?	グラムバンチャヤート	村長	0.5	あり	11,000	12,000	△	村長	Bhangikarast
2. Bahuti	村長	グラムサバ	〃	なし	なし	—	—	×	尊敬されている村人	売り手
3. Kauria	市委員会	〃	〃	なし	〃	—	—	×	村長	?
4. Shayan Dhaspur	ザミンダール	開設者(元ザミンダール)	私人	0.25	〃	—	—	×	市の管理人	Bhangikarast
5. Goni	?	私人	徴集請負人	0.25	あり	2,000	1,500	×	徴集請負人	売り手
6. Bahriya	私人	開設者(私人)	私人	0.1-0.2	なし	—	—	○	市の管理人(私人)	Bhangikarast
7. Dhikunni	ザミンダール	バンチャヤート	村長	0.5	あり	32,000	34,000	△	村長・バンチャヤート	〃
8. Atrauli	私人	政府(道路局)	なし	0.5	なし	—	—	×	警察	〃
9. Bharawan	藩王	バンチャヤート	村長	0.25	あり	?	?	△	村長	特別の消通者
10. Cherwa	村長	村長	〃	0.25	なし	—	—	×	なし	Bhangikarast
11. Mishrakhera	私人	私人	私人	0.1-0.25	〃	—	—	×	市の管理人(私人)	〃
12. Khasraul	〃	グラムバンチャヤート	村長	なし	〃	—	—	△	村長	〃
13. Begalpur	ザミンダール	〃	〃	?	あり	?	?	×	村の長老	Hubhalikarast
14. Hayatganj	〃	〃	〃	0.25-1.0	〃	1,300	1,600	×	住民達	?
15. Newada Bijai	藩王	バンチャヤート	〃	0.1-1.0	〃	?	5,000	△	徴集請負人・村長	Bhangikarast
16. Paharpur	私人	グラムバンチャヤート	住民達	徴物	〃	500	955	×	村人達	〃
17. Pawayan	藩王	元藩王	元藩王	0.5	〃	?	?	×	元藩王	Jairamkarast
18. Bilariya (Amitahara)	ザミンダール	開設者(元ザミンダール)	開設者(元ザミンダール)	0.2	なし	—	—	×	開設者(元ザミンダール)	Bhangikarast
19. Malehra	藩王	私人	私人	なし	〃	—	—	×	?	〃
20. Lumamau	ザミンダール	村	村長	0.25	あり	6,500	8,200	×	村長	〃
21. Mahgawan	私人	グラムバンチャヤート	〃	0.5-4.0	〃	9,000	18,500	×	徴集請負人・村長	〃
22. Mohammaadpur	私人	開設者(私人)	開設者(私人)	0.5	〃	?	?	×	開設者(私人)	村の1女性
23. Sikrori	?	グラムバンチャヤート	村長	0.25-0.5	〃	1,100	1,800	△	バンチャヤート	Bhangikarast
24. Muhnukhera	私人	徴集請負人	〃	0.5	〃	11,000	12,000	×	徴集請負人	〃
25. Gadaura	ザミンダール	グラムサバ	〃	0.25-5.0	〃	—	—	×	〃	〃
26. Tiloiyan Kalan	私人	開設者(私人)	開設者	なし	なし	—	—	×	開設者(私人)・警察	〃
27. Factory	〃	政府(道路局)	紡績工場	〃	〃	—	—	×	紡績工場の支配人	〃
28. Hardal Mau	製粉工場主	製粉工場主	製粉工場主	0.25	あり	1,000	2,400	?	開設者(製粉工場主)	〃
29. Baisaliya	農村開発事務所	私人	村人達	なし	なし	—	—	×	村人達	市に面した家の住民
30. Malaiyan	?	〃	グラムバンチャヤート	0.25	あり	1,000	1,000	△	グラムバンチャヤート	Dhanakkarast
Bindraban	私人	開設者(私人)	開設者(私人)	なし	なし	—	—	×	開設者(私人)	売り手
Sandila	藩王	町役場	?	2.0-5.0	あり	110,000	125,000	×	町役場	Bhangikarast

注 1) 市委員会 ○:あり △:なし ×:なし △:バンチャヤートが市委員会の機能を代行

まず、市の開設者については、第1列に記されている。不明の場合を除いて考えると、大部分の市は伝統的なエリート層、すなわち、ザミンダール(7ヶ所の市)、地方的な藩王(4ヶ所の市)、または地主(1ヶ所の市)によって開設されたものである。ただし、いくつかの新しい市は、工場主、村長(village *pradhan*)、市委員会や農村開発事務所によって、開設されている。

とはいえ、市場(厳密には、市が開かれる土地)の現在の所有者は、必ずしも伝統的なエリートの子孫ではない。第2列に記されているように、半分以上の市は、パンチャヤート、グラムサバ、地方政府などの公的機関によって所有されている。ただし、14ヶ所の市は、今もなお、私人による所有になっている。

さらに、市の管理もまた、第3列に記されているように、公的機関や私人(*pradhan*等)によってなされるのが、大部分である。ただし、12ヶ所の市では、現在もなお、市の私的所有者、またはその代理人によって管理されている。

出市料については、第4列に記されているが、約3分の2の市において、それが課されている。ただし、小さな市においては、課されていない。出市料の額は、わずかで、ふつう一人1日当りRs.0.25かRs.0.50である。いくつかの市においては、出市料は商品の種類によって異なっている。その場合、一般に、衣類で最も低く⁴⁾、野菜、穀物、魚の順に高くなっている。

出市料の徴集は、多くの場合、毎年の入札により市の所有者(私的・公的の)に代わってそれを行う権利を獲得した、徴集請負人(contractor)によって行われる(第5列参照)。1988年と1989年の落札額は、第6列および第7列に記されている。その額は、市毎に異なっており、市の規模や取引量にある程度比例しているものと思われる。サンディラの毎日市が圧倒的に高額であり、Dhikunni, Mahgawan, Gondwa, Gadaura等の市がこれに次いでいる。また、落札額の時系列変化は、各市における取引量の傾向を反映しているものと思われる。大部分の市は、両年次間で落札額を増加させているが、若干の市は、変化がないか、むしろ減少させている。これらの市は、前章で見た「停滞」または「衰退」傾向を指摘された市である。

西ベンガルでは、大部分の市で、市商人や常設店舗商人によって、市委員会が組織されているが、当地域においては、そのような委員会をきわめて希で、1ヶ所の市においてのみ存在しているにすぎない(第8列参照)。ただし、いくつかの市においては、村のパンチャヤートが、その機能を代行している。

市で紛争が起こった場合には、約半数の市では、市の所有者、管理人または徴集請負人がそれを解決する(第9列参照)。しかし、残りの半数では、村のパンチャヤート、村長、あるいは村の長老が解決にあたる。

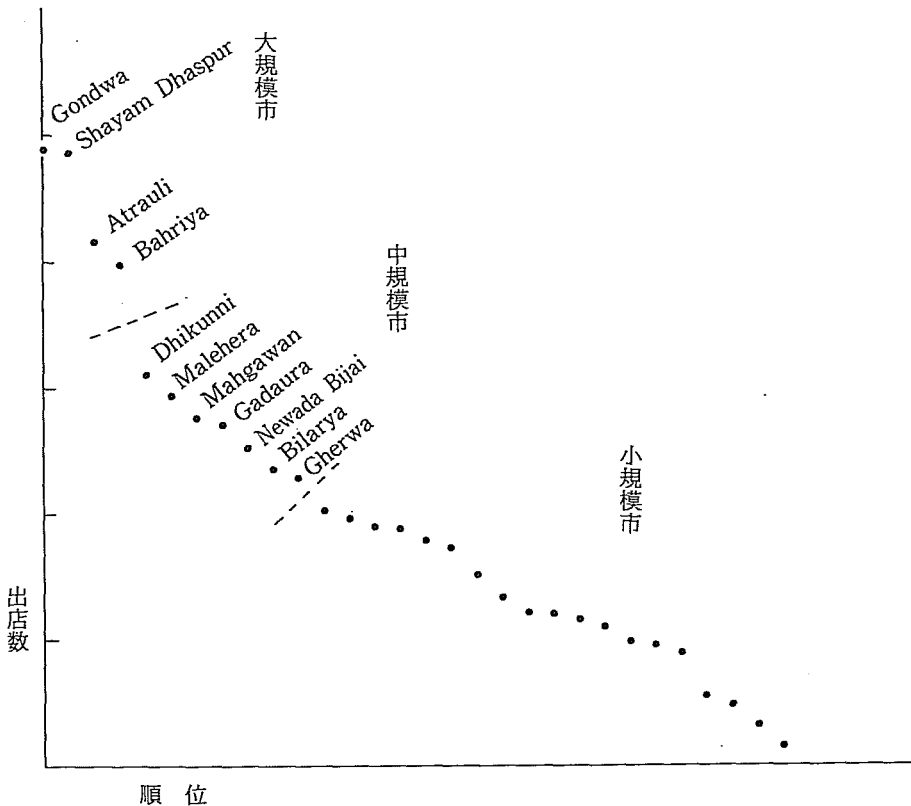
市の諸設備の維持は、市の管理人の職務である。しかし、出市料が低額であったり、徴集されなかったりするため、一般に市の設備はきわめて貧弱である。サンディラの毎日市は、囲壁、門、および多数の上屋を持っているが、定期市の大部分は、なんらの設備をも持たず、わずか

に若干の市 (Dhikunni, Gondwa, Bahriya, Mishrakhera) が、その一部に上屋などの設備をもっているに過ぎない。

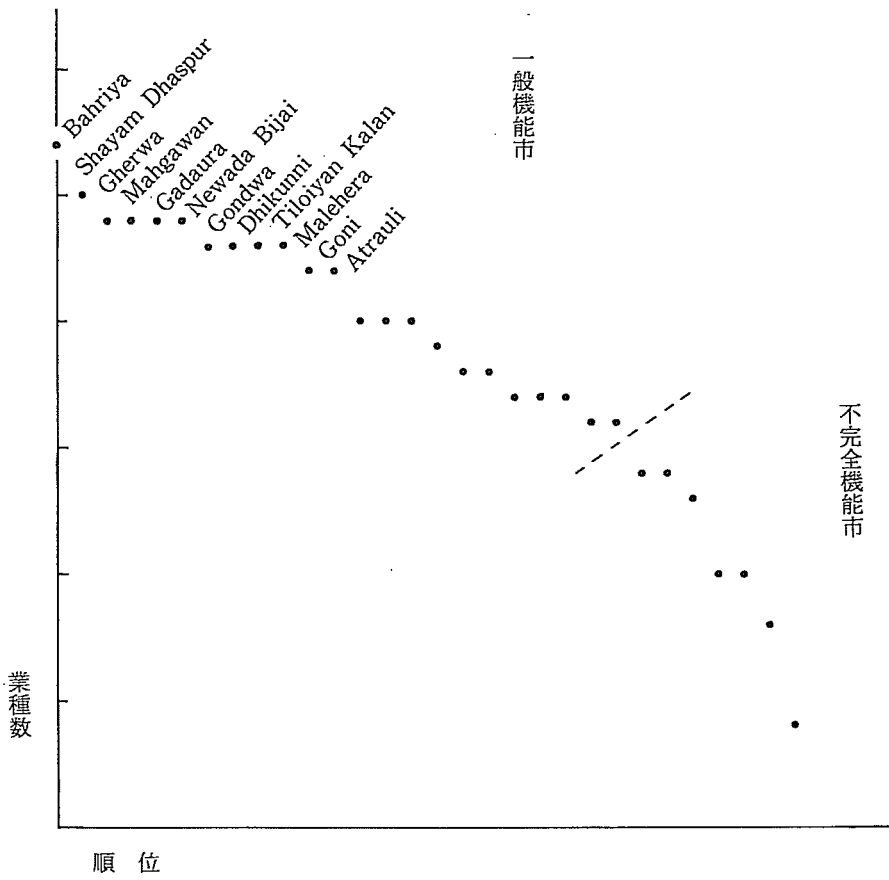
市場の清掃は、ほとんどの市の場合、伝統的な掃除人カースト (*Bhangi*) または他の低位カーストに属する、指定の清掃人によって行われる(第10列参照)。普通、彼らには、そのサービスに対する報酬として、市の売り手から商品のごく少量を与えられる。ただし、この他に、売り手自身によって清掃される市が3ヶ所、付近の住民によって清掃される市が1ヶ所ある。

5 市の規模と機能

第7表に示したように、対象地域の定期市は、出店数が最少25から最多485まで、規模の差が大きい。第12図は、出店数の順位・規模曲線を示しているが、筆者らによる以前の調査地域と同様に、当地域でも、グラフの中で、出店数350および210付近に、懸隔点ないし傾斜の変換点が認められる。したがって、市は、これらの点を境にして、三つの規模階層に区分される。すなわち、「大規模市」(Gondwa, Shayam Dhaspur, Atrauli, Baheria), 「中規模市」(Dhikun-



第12図 出店数による定期市の順位・規模曲線



第13図 業種数による定期市の順位・規模曲線

第7表 市の出店数とその業種別構成

市の名称	調査日	出店数	食料および原材料										
			野菜	果物	穀物 豆類	調味 料等	タバコ ビートル	魚	肉	卵	家畜	菓子	食用油
1) Gondwa	891217 日	485	106	10	139	57	20	4	1	4		34	14
2) Bahuti	900101 月	15	5			4	2						
3) Kauria	900105 金	48	18	1	16	5	2						
4) Shayam Dhaspur	891210 日	483	101	5	180	60	18	5	3	1		11	
5) Goni	891220 水	194	39	8	47	10	11	3	3	3		19	7
6) Bahriya	891226 火	397	101	19	52	37	16	6	4		4	54	11
7) Dhikunni	891202 土	311	88	7	73	35	10	3	4			10	11
8) Atrauli	891230 土	414	117	17	71	50	15	1		3	2	21	7
9) Bharawan	891207 木	179	53	4	28	9	19	2		1		9	
10) Gherwa	891215 金	228	65	3	62	18	13	3	1	1		5	5
11) Mishrakhera	891211 月	147	38		29	24	10	3	3			9	1
12) Khasraul	891227 水	110	36	2	22	14	5			3	2	4	2
13) Begalpur	891225 月	86	29	4	15	12	6					2	1
14) Hayatganj	891231 日	96	25	3	25	10	6		1	1		3	
15) Newada Bijai	891209 土	249	82	7	43	27	17	2		1		10	2
16) Paharpur	891221 木	94	32	1	19	11	6					3	
17) Pawayan	891231 日	189	82	3	16	20	11		1			10	4
18) Bilarya (Amilahara)	900102 火	234	68	1	78	22	10					10	4
19) Malehra	891230 土	295	97	10	29	39	8	6	3	12		8	13
20) Lumamau	891224 日	200	73	7	33	16	12					10	6
21) Mahgawan	891214 木	275	94	6	37	29	14	2	2	8		7	10
22) Mohammadpur	891201 金	190	69	1	34	15	5	3	4			10	9
23) Sikrori	891218 月	120	50	2	5	14	6	1	3			10	5
24) Muhrukhera	891216 土	117	46	3	12	13	8			4		5	3
25) Gadaura	891227 水	270	97	11	48	18	12		8	2		16	8
26) Tiloiyan Kalan	891125 土	174	69	1	28	9	8	4		4	1	9	5
27) Factory	891222 金	132	80	7	11	3	1		5	2		9	4
28) Hardal Mau	891205 火	121	47		34	5	2	2		1		5	6
29) Balsalia	891129 水	31	21	1		2	1					2	2
30) Malaiyan	891127 月	57	25		13	2	3	1				6	1
計		5941	1853	144	1199	590	277	51	46	51	9	311	141
平均		196.9	61.8	4.8	39.9	20	9.2	1.7	1.5	1.7	0.3	10.3	4.7
構成比		100.0	31.2	2.4	20.2	9.9	4.7	0.9	0.8	0.9	0.2	5.2	2.4
Bindraban		25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sandila	891126 日	356	90	2	85	45	7				1	30	21
合計		6297	1943	146	1284	635	284	51	46	51	10	341	162
構成比		100.0	30.9	2.3	20.4	10.1	4.5	0.8	0.7	0.8	0.2	5.4	2.6
Jangle Shwar	891228 火	662	57	50	13	29	35					115	

注 ゴシックで示した業種は、出店数の計が7以上の主要業種。最終列の「主要業種の数」は、各定期市に出店している主要業種の種類数。なお、Jangle Shwarは、Atrauliの近くで開かれる大規模な大市 (mela)。

ni, Malhera, Gadaura, Newada Bijai, Bilarya (Amilahara), Gherwa), および「小規模市」(その他の20ヶ所の市)である。一般に、市の規模は、西ベンガルと同じ程度で、バンガラデシュやタミルナードよりはかなり小さい。なお、サンディラの毎日市は、出店数が356で、定期市の最多のものよりは少ないが、毎日開かれるゆえに、その影響力が大きいことは言うまでもない。

第7表中には、調査しえた30の定期市とサンディラの毎日市について、出店数を業種毎に示

手 工 芸 品						工 業 製 品									
土 器	竹 器	ロープ	鉄 器	木 器	玩 具	装身具	文 具	金 物	衣 類	履 物	薬	化 学	灯 油	ラン	ト ラ
							雑	貨				料		プ	ク
	4			4	1	13		5	40	11	1	1	2		
						2			4						
2	3	1		9		10	1	6	35	5		1	1		
	1	1		1		9		2	15	3		1		6	
3	1	1	1	5	1	8		5	32	10		2	4		
2	7	2	1			11	3	2	27	3	1		3		
	4	2	2			18	2	3	45	6			5		
1		1		1		12	1	4	14	4			1	3	
	1	1				3	1	2	18	2	1		5	1	
1						4	2		14	2		1			
						1	1		10	3			2		
						4	1		4	2			3		
	1			2		1	1		8	2			3		
2	2	1		1		14	1	2	14	6	2		1		
2						5	1		8				3		
3	2	1		2		6		2	16	2			3		
2	3	2				1	3		20	3					
4	1	1	1	4		16			23	5			3		
1	1		1	5		6		1	15						
		4		1	3	13		1	24	3		1			
1		2				5			14	1	1		2		
				2		6			10		1		1		
1	1			2		3			10	1					
3			1	1		9		1	17	3	2		1		
	4		1	2		4	2		7	2		1	1		
									1						
1				1					7		2		2		
								1							
			1						4						
29	40	16	12	43	2	184	21	36	457	79	11	7	53	4	0
1.0	1.3	0.5	0.4	1.4	0.1	6.1	0.7	1.2	15.2	2.6	0.4	0.2	1.8	0.1	
0.5	0.7	0.3	0.2	0.7	0.0	3.0	0.4	0.6	7.7	1.3	0.2	0.1	0.9	0.1	0.0
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1	5	2			7	3	2	35				1	4	
29	41	21	14	43	2	191	24	38	492	79	11	7	54	8	0
0.5	0.7	0.3	0.2	0.7	0.0	3.0	0.4	0.6	7.8	1.3	0.2	0.1	0.9	0.1	0.0
12	13		23	11	5	105	11	12	66	27	2				3

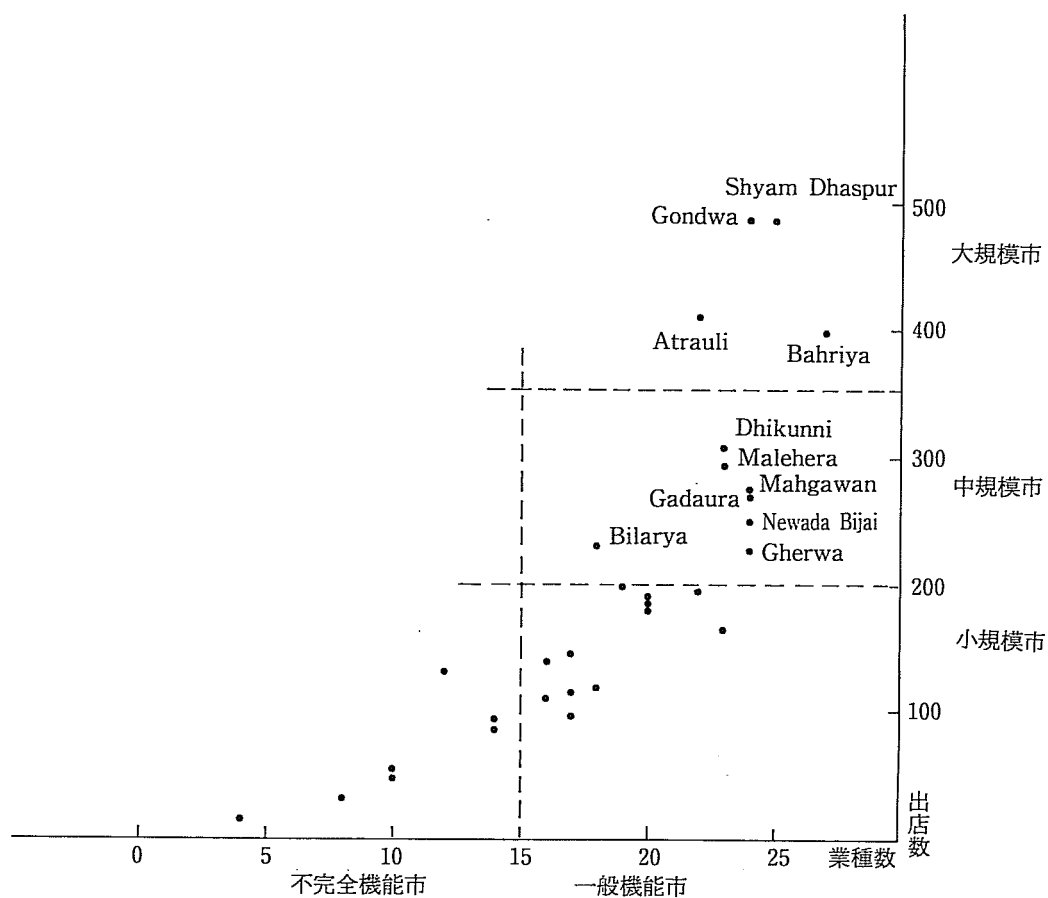
してある。同表の最後列には、主要30業種（出店数の計が7以上の業種）の内、各定期市がどれだけの数の業種を備えているかが記されている。その数は、最少4業種から最多の27業種まで、かなりの差異を示している。第13図は、このような業種数の順位・規模曲線を表している。グラフ中には、筆者らによる以前の調査地域と同様に、傾斜変換点が15付近に存在するので、業種数15以上の「一般機能市」（23ヶ所）と、業種数15未満の「不完全機能市」（7ヶ所）とを、区別することができる。「不完全機能市」の割合は、バングラデシュやタミルナードの場合とほ

市の名称	サ　　ー　　ビ　　ス													主要 業種 の数	
	鍛冶屋	鍵修理	自転車 修理	履物 修理	電器 修理	仕立屋	床屋	大工	食堂	洗濯屋	へび 使い	手品師	花屋		射的場
1) Gondwa			1	3	4			4		2					23
2) Bahuti															4
3) Kauria								1							10
4) Shayam Dhaspur	2			3	2		2	11		1					25
5) Goni				2	6			1		2					22
6) Bahriya	1	1		3	7		2	4		2					27
7) Dhikunni	1				4			3							23
8) Atrauli	1	2			8			12							22
9) Bharawan					4			5		3					20
10) Gherwa	5			4	4			3		1					24
11) Mishrakhera	2				2			1	1						17
12) Khasraul				1	2										16
13) Begalpur					2			1							14
14) Hayatganj					2			2							17
15) Newada Bijai	2				4	1	2	2			1				24
16) Paharpur	1			1	1										14
17) Pawayan	2				1					2					20
18) Bilarya (Amilahara)	1			2	3			1							18
19) Malehra	3			3	1			5							23
20) Lumamau	2				1		2	5		1	1	1			19
21) Mahgawan	4	1		1	2		2	4		2					24
22) Mohammadpur	2	1			2		4	5							20
23) Sikrori	1				1			1		1					18
24) Muhnukhera				1	1			3							17
25) Gadaura	2			1	3		4	1		1					24
26) Tiloijan Kalan	4			1	1			5		1					23
27) Factory					1			5		3					13
28) Hardal Mau	2						1	3							16
29) Balsalia								1							8
30) Malaiyan								1							10
計	38	6	26	69	1	19	90	1	22	2	1	0	0	0	
平均	1.3	0.2	0.9	2.3	0.0	0.6	3.0	0.0	0.7	0.1	0.0				
構成比	0.6	0.1	0.4	1.2	0.0	0.3	1.5	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Bindraban	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Sanaila		1					3	3		8					
合計	38	7	26	69	1	22	93	1	30	3	1	0	0	0	
構成比	0.6	0.1	0.4	1.1	0.0	0.3	1.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Jangle Shwar					6			9		11			5	41	1

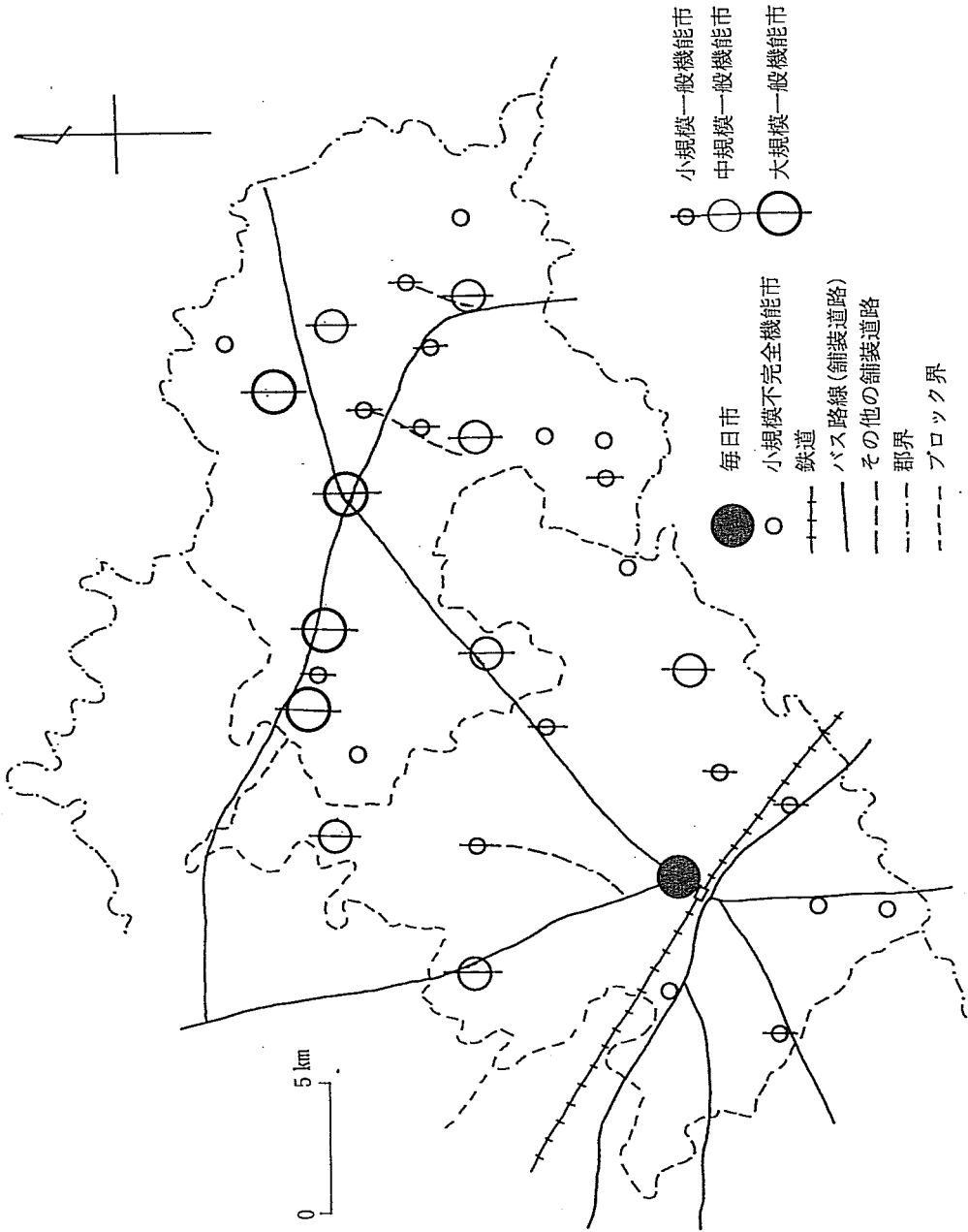
ほ同じで、西ベンガルの場合よりは低いと言える。

第14図は、X軸に業種数を、Y軸に出店数をとって、各定期市を図上にドットし、それらを分類しようとしたものである。それによれば、30の定期市が、四つの類型に区分される。すなわち、「大規模一般機能市」(4ヶ所)、「中規模一般機能市」(7ヶ所)、「小規模一般機能市」(12ヶ所)、および「小規模不完全機能市」(6ヶ所)である。

第15図は、このような4類型の市の空間的配置を示している。「大規模」および「中規模」の



第14図 定期市の類型区分



第15図 市の類型別分布

「一般機能市」は、空間的にかなり均等に分布している。これに対して、「小規模」の「一般機能市」と「不完全機能市」は、それらの中間点に位置している。また、サンディラの町の近くには、おそらく、その毎日市の強い影響力のため、「大規模市」や「中規模市」が存在しない。このような空間的配置の傾向は、筆者らによる以前の調査地域における傾向と、基本的に類似している。

第8表は、当調査地域と前回までの調査地域における、出店の業種別構成を示したものである。他地域に比べ当地域では、穀物、肉・卵、菓子、装身具と履物の構成比が高く、果物、魚、家禽、手工芸品と雑貨・金物の構成比が低い。穀物の構成比が高いことは、この地域で多様な穀物が栽培され、それらが、市において、局地的に交換されたり、一部が移出のため集荷されたりするためである。肉・卵の高い構成比と魚の低い構成比は、当地域と、他地域、特にバン

第8表 4 調査地域における市の出店の業種構成の比較

	ウッタラプラデシ州 サンディラ地域	タミルナード州 ナーマッカル郡	西ベンガル州 タムルク地域	バングラデシュ ミルジャプル郡
野菜	31.0	36.2	29.9	21.8
果物	2.3	7.6	7.8	3.3
穀物・豆類	19.3	7.8	7.8	11.3
調味料等	10.2	18.9	3.7	} 12.3
タバコ・ピーテル	4.5	8.6	3.6	
魚	0.8	0.8	7.3	4.2
肉・卵	1.5	1.1	0.4	0.3
家禽・家畜	0.2	1.3*	0.5	6.0
菓子・スナック・飲料・食用油	8.5	2.4	3.1	5.1
ジュート・マスタードシード	—	—	—	6.2
木材・竹・燃料	—	—	0.2	7.3
手工芸品	2.4	3.2	10.0**	4.5
装身具・化粧品	3.1	2.0	1.3	0.4
文具・雑貨	0.4	1.0	0.9	2.3
金物・鏡・ランプ・家具	0.8	0.7	0.3	—
衣類	7.7	3.5	10.0	9.6
ベッドシート	—	—	6.7	—
手織物用原材料	—	—	1.5	—
履物	1.4	0.3	0.5	0.3
葉・化学肥料	0.3	—	0.7	1.1
灯油	0.9	0.2	0.3	—
サービス	4.8	2.6	3.6	3.8

注：* 家畜の売り手は除外されている。

** 魚取り籠 (*mugri*) の売り手が含まれている。

第9表 市の機能

市 名 称	開市日1日当 りの購買者数	市場圏の 半径(km)	集荷機能		市場の社会的・文化的機能		
			祭礼・大市 (mela)	芸術等 芸能	集会	行政活動	その他
1. Gondwa	?	?	祭物	ヒンズーの祭	ある種の集会		
2. Bahuti	20	2.0	なし				
3. Kauria	100	2.4	なし				
4. Shayam Dhaspur	500	8	祭物	家畜の大市	芝居		
5. Goni	300	1.6	なし				
6. Bahriya	500	5	なし				
7. Dhikunni	1,500	6.4	なし				
8. Atrauli	2,000	10	祭物・野菜・魚		音楽	公売の告示	結婚の手配
9. Bharawan	1,500-2,000	5-6	祭物・野菜		政治的集会		結婚の披露宴
10. Gherwa	?	9.6-12.8	祭物				
11. Mishrakhera	250	3	なし	ヒンズーの祭・大市	芸能		結婚の披露宴
12. Khasraul	250	4.8	祭物				
13. Begalpur	200	1	?	ヒンズーの祭・大市			結婚の披露宴
14. Hayatgani	100	3.2	なし				
15. Newada Bijai	1,000	6-7	なし				
16. Paharpur	200	1.6	なし				伝統的法廷
17. Pawayan	500	3	祭物				
18. Bilarya (Amiahara)	1,000	4.8-6.4	祭物				
19. Malehra	2,500	3	なし				
20. Lumamau	500	4.8	なし				
21. Mahagan	1,000	6.4	祭物				
22. Mohammadpur	500	3	なし				
23. Sikrori	1,000	3	祭物				
24. Muhukhera	150	5	なし				
25. Gadaura	500	5	祭物				
26. Tiloiyan Kalan	300	3-4	なし				
27. Factory	500	1	なし				
28. Hardal Mau	300	8-10	なし				
29. Balsaliya	100	1-2	なし				
30. Malaiyan	?	1-2	なし				
Bindraban	100	4.8	なし				
Sandila	2,000-2,500	64	祭物		ある種の集会	選挙の投票	

グラデシュや西ベンガルとの、自然環境の違いによって、説明することができる。他の相違点については、現時点では、その違いをもたらした要因を明らかにすることは困難である。おそらく、各業種毎の常設店舗の立地状態や、儀礼的交換など市場外での交換のあり方が、慎重に考慮されねばならないであろう。

第9表に示したように、当地域の定期市は、生産物の集荷機能を、あまり持っていない。穀物が10ヶ所の市で、野菜が2ヶ所の市で、ロープが1ヶ所の市で、それぞれ集荷されているが、その集荷量はあまり大きくはない。最大の集荷機能は、サンディラの毎日市によって担われている。穀物を中心とする買い集め商人は、サンディラの町とGondwa集落に多く拠点を置いているが、このほかにも、Atrauli, Bharawan, Gadaura, Sikroi, Lumamau等の村にも、若干が住んでいる。

当地域の定期市は、遠隔地の村で小店舗を営む小商人がそこで少量の仕入れを行う他は、一般に、卸売機能を持っていない。サンディラの毎日市のみが、卸売機能を強く持っているのであり、市廻り商人や村の商店主は、この市において商品を仕入れることが多い。

しかし、以上のような経済的諸機能の他に、定期市は、経済外的な、すなわち、社会的・文化的な諸機能を持っている。地区の長老等へのインタビュー結果によれば、第9表に示されるような社会的・文化的活動が、市場を利用して行われる。

まず、ヒンズーの祭りや大市 (*mela*) が、市の広場で行われる (4ヶ所の市)。次に、芝居、手品、その他の芸能等が、市で行われる (4ヶ所の市)。三つ目に、市場は、政治的集会の場として使われることがある (4ヶ所の市)。四つ目に、局地的な紛争処理のための伝統的な法廷が、市場を利用して開かれることがある (1ヶ所の市)。五つ目に、政府が、市場を投票場や競売の公示の場として利用することがある (3ヶ所の市)。六つ目に、学校が、その校庭を市場とす共有することがある (1ヶ所の市)。七つ目に、郵便物が、市において周りの村の住民に配られる (多数の市)。八つ目には、縁談が市でまとめられ、結婚の披露宴が市場で開かれることもある (3ヶ所の市)。最後に、いずれの市も、そこで親戚や友人、その他の知合いが顔を合わせ、各種の情報を交換する場となっている。このようなことから、市および市が立地する集落は、経済的意味においてのみならず、社会的・文化的意味においても、局地的中心地としての役割を果していると考えられる。

ところで、市の季節的变化についても、一定の情報が得られたので、記しておきたい。この地域では、1年は、雨季 (7月から9月まで)、冬季 (10月から3月まで)、および夏季 (4月から6月まで) の、3季に区分される。売り手の数から言えば、冬季および夏季には市は活況を呈し、これに対して、雨季には市の活動は鈍り、特に豪雨の際には市は開かれぬ。市で販売される商品、特に農産物には季節的な変化がある。雨季には、米、とうもろこし、落花生、およびある種の野菜が販売される。冬季には、多量の野菜 (じゃがいも、トマト、カリフラワーなど) が出回り、米および小麦もある程度販売される。夏季には、多量の穀物 (特に小麦)、豆

類、マスタード・シード、マンゴー、グアバー、およびある種の野菜が販売される。商品の価格も、基本的には、これらの供給量に応じて季節的に変化する。

6 市の相対的重要性

伝統的市に加えて、対象地域には、サンディラの町を始めとして、いくつかの常設店舗集積地区がある。筆者らの調査によれば、常設店舗の総数は少なくとも835に達し、その過半がサンディラの町に集中している。第10表は、当地域の常設店舗数および市の出店数を、筆者らの以前の調査地域における数字と比較したものである。当地域の人口千人当りの常設店舗数は、バングラデシュとほぼ同じで、タミルナードや西ベンガルよりはかなり少ない。したがって、当地域における常設店舗活動は、総体としてそれほど活発であるとは評価できない。

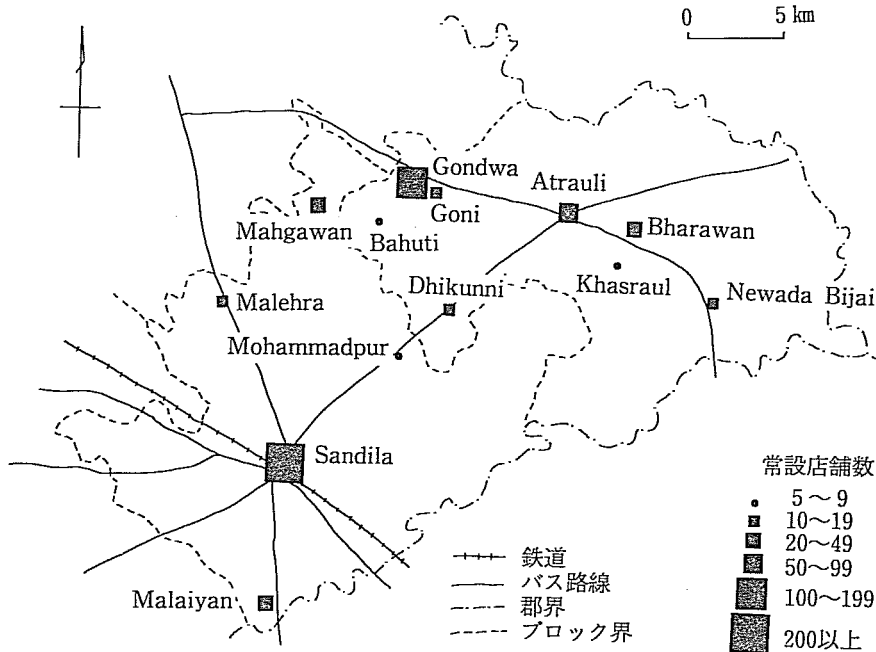
一方、当地域における市の大部分は、1日当り出店数が少なく、規模が小さいと言える。しかし、市の開催頻度はかなり高いので、1日当り出店数に週当り開催日数を掛け合わせた週当り延べ出店数は、どの市についてもかなり多くなる。この週当り延べ出店数の当地域全体における総和は、第10表に示したように、15,107となる。この数字を人口千人当りの数値に置き換えて、他地域と比較してみると、当地域が最も高い値を示す。したがって、当地域は、市の規模が比較的小さいにもかかわらず、相対的に市活動の活発な地域であると評価されよう。

それでは、市と常設店舗との相対的重要性は、いかに評価されるであろうか？ その評価のために、まず、週当り延べ出店数の総和(15,107)を、週日数(7)で割り、1日当り平均出店数2,157を得た。この数字は、常設店舗(毎日開店しているとみなされる)の総数835の、二倍半を越えており、したがって当地域では、常設店舗より市の方が重要性が高いと推測されよ

第10表 4調査地域における市と常設店舗の相対的重要性

調査地域	ウッタラプラデシ州 サンディラ地域	バングラデシュ ミルジャプール郡	西ベンガル州 タムルク地域	タミルナード州 ナーマッカル郡
人口 〔年〕	242,441 〔1981〕	324,000 〔1984〕	294,000 〔1981〕	347,000 〔1981〕
常設店舗数 (人口1,000人当り)	835 (3.63)	1,200 (3.70)	4,776 (16.24)	3,300 (9.51)
週当り市出店延べ数 (人口1,000人当り)	15,241 (62.86)	16,721 (51.61)	15,975 (54.34)	6,620 (17.35)
1日当り平均市出店数 (人口1,000人当り)	2,177 (8.98)	2,389 (7.37)	2,282 (7.76)	860 (2.48)

注：毎日市の出店数はサンディラ地域(ウッタラプラデシ州)とタムルク地域(西ベンガル州)については含まれているが、ミルジャプール郡(バングラデシュ)とナーマッカル郡(タミルナード)では除外されている。



第16図 常時店舗の分布

う。このような状況は、バングラデシュと類似しており、現在では常設店舗の方が重要性が高いと考えられるタミルナードや西ベンガルとは、大いに異なっている。おそらく、多数の常設店舗が集積しているサンディラの町とその周辺を除けば、伝統的市が、当地域の住民の日常生活にとって、重要な役割を果しているものと思われる。

ところで、第16図は、当地域における常設店舗の分布状態を示している。この図を、市の類型別分布を示した第15図と比較してみると、次のようなことがわかる。

(1) 常設店舗の集積地はすべて、市の所在地であり、しかもそのほとんどは、「大規模市」または「中規模市」の所在地である。従って、常設店舗からなる恒常的中心地の形成の上で、市が重要な役割を果していると推測される。

(2) 常設店舗集積地の大部分、特にその大規模なものは、舗装道路に沿って立地している。従って、道路交通もまた、恒常的中心地の形成に大きな役割を果しているものと推測される。

(3) 一方、市がありながら、常設店舗の集積が見られない場合も多く存在する。そうした市の大部分は、近年開設された市であり、そこでは、いまだ恒常的な中心地の形成が進んでいないといえる。

これらの状況は、近年、恒常的中心地の形成が急速に進みつつあるバングラデシュの状況によく似ており、それらが既によく発達しているタミルナードや西ベンガルの状況とは、異なっている。住民からの聞き取りによれば、サンディラの町以外で常設店舗の集積が見られるよう

になったのは、最近10年間のことであると言う。

7 おわりに

以上、本稿で明らかにされた主な点を要約し、結論に代えたい。

(1) 対象地域内には、主として週に2回開催される30余の定期市が、空間的にも時間的にもかなり均等に配置されている。毎日市は、郡の中心のサンディアの町にのみ立地する。市の分布密度はかなり低いが、市の開催頻度はむしろ高い。

(2) 市数の変化は、1904年から1961年までは小さかったが、1960年代と1970年代に市数の急増が見られ、それ以後はむしろ減少傾向にある。この間、市の開催頻度は、徐々に上昇してきた。人口増、市場経済化、交通の改善などが、これらに影響を与えてきたと推測される。

(3) かなりの市が、私人によって所有され、所有者自身またはその代理人によって管理されている。しかし、より多くの市が、公的機関によって所有され、管理されている。約3分の2の比較的大きい市においては、出市料が徴集請負人によって徴集されているが、その額はわずかで、そのせいか、市の設備は一般にきわめて貧弱である。

(4) 定期市は、規模によって3階層に、機能によって2階層に、それらの組合せによって4類型にそれぞれ区分され、これらの類型の市は、一定の配置の規則性を示している。「小規模一般機能市」が多いのが、当地域の特徴であり、出店の業種別構成にも、当地域の特性が認められる。サンディアの毎日市には、集荷機能や卸売機能が強く認められるが、定期市は、そのような機能を欠いているか、あったとしてもきわめて弱い。しかし、定期市は、周辺地域に対する社会的・文化的中心としての役割をも果している。

(5) 当地域においては、伝統的市は、いまだに常設店舗より重要な役割を果していると推測される。とはいえ、そのような市の存在が、常設店舗群からなる恒常的中心地の形成に大きく寄与していると考えられる。

謝 辞

本研究は、1989・90年度の文部省科学研究費国際学術研究（代表者石原 潤，課題番号01041042）によるものである。記して感謝の意を表したい。

注

- 1) Ishihara, H. ed., *Markets and Marketing in Rural Bangladesh*, 1987, Dept. of Geography, Faculty of Letters, Nagoya University
- 2) Ishihara, H. ed., *Markets and Marketing in South India*, 1988, Dept. of Geography, Faculty of Letters, Nagoya University
- 3) Ishihara, H. ed., *Markets and Marketing in West Bengal and East Nepal*, 1989, Dept. of Geography, Faculty of Letters, Nagoya University

- 4) 筆者らの他の調査地域では、衣類の売り手の出市料は高いのが通常であった。この地域において、それがなぜ低いのかは明らかではない。

Distribution and Characteristics of Traditional Markets in Sandila Region, Uttar Pradesh, North India

Hiroshi Ishihara & Tsunetoshi Mizoguchi

The authors investigated idtribution and characteristics of traditional markets in Sandila *Thasil*, Hardoi District, Uttar Pradesh, North India. They selected two Development Blocks (*Vikas Khand*), that is, Sandila and Bharawan Blocks in the *Tahsil* as their research area. The authors visited almost all of them. They observed the markets, made sketch maps of them, and conducted interviews with manegers or some older persons who were able to provide good informations about the markets. Informations on the historical development of the markets were obtained by one of the authors (H. Ishihara) from old topographic maps, local gazetteers and population censuses.

The main findings are as follows;

(1) In the research area, many periodic markets which are held generally twice a week are spatially and temporally distributed fairly uniformly, and a daily market is located in Sandila Town, the headquater of Sandila *Tahsil*. The density of market distribution is not so high, but the frequency of market days is rather high.

(2) From 1904 until 1961 little change happened in number of the markets. In 1960s and 1970 s, however, the number increased rapidly, then after that it has been rather decreasing. Meanwhile the frequency of market days has gradually increased. It is supposed that development of market economy and improvement of transpotation has influenced these changes.

(3) Some markets are owned by private persons and managed by their agents. More markets are, however, owend and managed by public organizations. Small sum of market fees is collected by contractors from each seller at the larger markets. But the facilities of the markets are usually very poor.

(4) The pereiodic markets are classified into three groups according to their size, into two groups by their function, and into four groups by the combination of both indicies. In this area, the percentage of "small-scale markets", particularly that of "small-scale general markets", is relatively high. The assembling and wholesale functions of the periodic markets are slight, while the Sandila daily market has both function strongly. The periodic markets, however, function as not only economic but also socio-cultural centers for their surrounding areas.

(5) In this area, the markets have greater importance than the permanent shops even now. It is supposed, however, that the markets have contributed to the development of central places which are mainly composed of the permanent shops.